

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.40					2.7
1 音環境		1.8	0.15	-	-			1.8
1.1 騒音		1.0	0.40	-	-			
1.1.1 暗騒音レベル		1.0	1.00	3.0	-			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
1.3 吸音		1.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-			3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
2.1.1 室温設定		3.0	0.60	3.0	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-			
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	-	3.0	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		2.5	0.25	-	-			2.5
3.1 昼光利用		3.4	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-			
3.1.2 方位別開口		3.0	-	3.0	-			
3.1.3 昼光利用設備	廊下、更衣室にトップライトを設置。	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		1.0	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御		1.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度		3.0	1.00	3.0	-			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-			
4 空気環境		3.2	0.25	-	-			3.2
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.6	0.30	-	-			
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.3 取り入れ外気への配慮	空気取り入れ口は汚染源のない方向へ向けている	5.0	0.33	3.0	-			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	施設全体を禁煙としている	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.5
1 機能性		3.7	0.40	-	-			3.7
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-			
1.1.1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
1.1.3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の移動等円滑化基準を満たしている	4.0	1.00	3.0	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	実習場の天井高を3.2m以上としている。	5.0	0.50	3.0	-			
1.2.2 リフレッシュスペース		-	-	3.0	-			
1.2.3 内装計画		1.0	0.50	3.0	-			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計	外壁クリア塗装など維持管理に配慮した計画としている	4.0	0.50	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保	廃棄物置場やごみ置場スペースを設け、各便所にSKを設置	4.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31	-	-			3.3
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性	建築基準法に定められた20%増の耐震性を有する	4.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	-
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水器具を使用し、中水利用を計画している	5.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		1.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.2	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高を4.0m以上としている	5.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	-
3.3 設備の更新性			3.8	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性	配管等は構造躯体を痛めることなく更新できる計画としている	4.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性	主要設備機器を各機械室及び屋上機械スペースに設置している	5.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース	機械室を分散配置し、バックアップスペースを確保している	4.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物外観及び日影について周辺に配慮し、緑地面積24.6%確保	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	車路の過半を透水性舗装としている	4.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物の熱負荷抑制		年間冷暖房負荷を抑制した計画としている	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		PAL値を186MJ/年㎡としている ERR=47	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制	運用、維持、保全の基本方針を計画している	4.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水		3.0	0.40	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	便所の排水等に雨水利用の計画としている	4.0	0.67	-	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント、再生砕石を使用する計画としている	4.0	0.20	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用	内装材等の建材は指定化学物質非含有材を使用する	5.0	0.32	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤を一切使用しない計画としている	4.0	0.33	-	-	-
2	断熱材		2.0	0.33	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率を一般建物に対して75%以下としている	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善	クールテントや透水性舗装を採用する計画としている	4.0	0.50	-	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
3	交通負荷抑制	来客用駐車スペース及びバックヤードを確保した計画としている	5.0	0.25	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	建物内外にごみ置場(分別)スペースを確保した計画としている	4.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	-
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周辺に配慮した外灯計画とし、広告灯を設けていない	4.0	0.70	-	-	-
2	曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-